令和５年度 第１回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

日　時：令和５年10月19日(木)10:00～11:50
場　所：富山県民会館　704号室
出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者４名、県教育委員会４名、学術振興課長　計１０名

（出席者からの主な意見）

１　公私比率のあり方

・これまでの公私比率の考え方を維持することに限界がきており、何らかの新しい考え方が必要だ。
・公私が公平な立場になるよう条件を整えて、健全な学校教育の充実を図るべきだ。
・新たなルール、具体的な内容については、今後も意見交換していきたい。

２　公私の魅力向上に向けた取組みの推進

（１）県外流出の増加

・中学卒業生の数が減っているのに、県外進学が増加していることは大きな課題。市町村教育委員会や中学校とコミュニケーションを図り、中学生のニーズを把握し、公私問わず、選ばれる学校づくりをしていかなければならない。
・部活動が理由の県外進学について、県外の私立は早くから中学生へアプローチを行っている。県内私学についても、県立より早い時期に生徒へアプローチが可能なことをしっかりと中学校側に周知する必要がある。
・県外進学の理由は様々であるが、中学生が進路先を決めるときに、将来富山県に戻り、富山県を支える人材となるような「種」を植えるような進路指導をしてほしい。

（２）魅力向上に向けた環境整備

・私立高校は、取組みの特徴を分かりやすく打ち出している。県立高校では、個々には魅力的な取組みをしているが、伝わっていないのではないか。課題発見・解決能力の育成に向けたプロジェクト学習に力を入れているが、魅力化・特色化という観点からも、中学生にもわかりやすく発信していくことが大事。

・魅力向上には、人材確保と言う観点からも、働く教職員にとっても魅力的でなければならない。学校現場で先生方が活き活きと働いていると、それを見ている生徒が将来教員を目指してくれるのではないか。

・教員の働き方改革と部活動の強化の両立は、難しい問題である。私立高校では、フレックスタイムや変形労働時間制を取り入れるなどの工夫もしている。

・部活動については、やる気のある先生方に制限をかけるのが難しく、公私ともに悩みである。クラブチーム化など自主的な活動への移行も必要でないか。

・県内の教員養成には教科のバラツキがあり、不足している教科の人材の確保は特に困難である。教員のなり手不足とともに、特に不足している教科の人材確保については、高等教育機関とも連携して教員養成を模索しなければならない。

３　その他

・県立高校の再編については、通学区域の距離の問題もあり、子ども達の通学方法が課題となるのでないか。

・来年度の県立工業高校２校の募集定員が減となっており、本県ものづくりの衰退につながることを危惧している。

・通学区が全県１区となるのであれば、県立高校の２次募集のあり方について考えていただきたい。

・資材高騰や、人件費上昇の中で、授業料を上げづらい状況下にあることから、私学の経営安定のために、経常費補助の充実を図ってほしい。

・今後も、公私が連携して、本県高校教育の魅力化について、様々な意見交換を行っていきたい。